

授業概要

領域「環境」の目的、内容、意義を学ぶ。環境を通した保育、遊びを通した保育の意味について理解する。教材研究としての物的環境、人的環境、社会的環境について考え、環境設定の意味を指導案に結び付けて学ぶことで、ねらいと内容についても理解し、環境を題材とした指導案の作成を理解する。また、その過程を模擬保育にて実践し、保育者の思い、子どもの気持ちについてより具体的に学びながら小学校の教科とのつながりを意識化する。

授業計画

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 第 1 回 | 領域の意味、および保育における総合性という言葉について理解する |
| 第 2 回 | 指導計画におけるねらいと内容の意味 |
| 第 3 回 | 領域「環境」の持つ意味についての理解 |
| 第 4 回 | 教材研究としてのモノと遊びとの関わり（情報機器及び教材の活用を含む） |
| 第 5 回 | 園全体の環境 保育課程、長期指導計画としての環境 |
| 第 6 回 | 教材研究としての自然との関わり（情報機器及び教材の活用を含む） |
| 第 7 回 | 子どもが自然から得ること |
| 第 8 回 | 領域「環境」の指導案作成 |
| 第 9 回 | 身近な物的環境への理解 |
| 第 10 回 | 環境構成に基づく指導案指導の作成への指導 |
| 第 11 回 | 食物や生き物に触れることの意味 |
| 第 12 回 | 模擬保育1 指導計画の作成と実践 |
| 第 13 回 | 模擬保育2 保育の意義と模擬保育の評価 |
| 第 14 回 | 模擬保育3 視聴覚教材を活用した保育実践（情報機器及び教材の活用を含む） |
| 第 15 回 | まとめ 環境と日々の生活の結び、小学校の教科とのつながりについて |
| 第 16 回 | 筆記試験による定期試験 |

到達目標

幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容を理解し、環境が子どもたちに働きかける意味をとらえる。また、「環境」を通した指導場面を想定し保育を構想する方法を身に付ける。

履修上の注意

幼稚園教育要領、保育所保育指針を常に持参すること。

予習・復習

予習としては、幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」にあたる箇所をよく読んでおくこと。復習としては、保育の総合性を念頭に各領域との総合的に関連づけること。

評価方法

筆記試験の結果 70%、授業態度 30%とする。

テキスト

「コンパス保育内容 環境」高橋貴志、目良秋子編著 建帛社 2018年